

カルメル

霊性センターニュース



聖三位一体

2016年5月

320号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
東京	20
京都	24
名古屋	28
北陸	29
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	42
編集後記	43

心の泉





第二巻

第十二章 聖なる十字架の栄光ある道

9 キリストに似ている

あなたは今、死ぬべき人として生きなければならないことを忘れてはならない。人は、自分に死ねば神に生きはじめる。キリストを愛するために、喜んで苦しみを忍ぼうとしないかぎり、天のことを理解する値打ちはない。快くキリストのために苦しむこと以上に、神に喜ばれ、またこの世であなたの靈魂のために益することはない。あなたがどちらかを選ぶことができるなら、慰めに満たされることよりも、キリストのために不遇を忍ぶことのほうを取りなさい。そうすれば、あなたはキリストに似た者となり、聖人たちにいっそう一致するであろう。私たちの功德と徳への進歩は、心の甘美さや慰めにあるのではなく、不幸と患難とを忍ぶことにある。

苦しむこと以外に、人間の救いに役に立つ道があったら、キリストは、必ず言葉と模範とをもって示されたであろう。ところがイエスは、弟子たちや、従いたいと望む人々に、十字架を担えとはっきりとお命じになって、「私に従いたい人は、自分を捨て、自分の十字架を担って、私に従え」（マタイ16・24、ルカ9・23）と言われた。

すべてを考察した後、「私たちは多くの患難を経て、神の国に入らなければならない」（使徒言行録14・22）という以外に結論はないのである。

いつくしみの特別聖年を生きるために — 5月—



母マリアは わたしたちが

困難のさなかにあるとき

闇夜を歩いているとき

神のいつくしみの愛を 母として

すぐそばで 示してくださいます

～マリー・エウジェンヌ神父 ocd～＊

いつくしみの特別聖年の5月、マリアの月、聖母月が巡ってきました。一般社会でも多くの国で「母の日」を祝います。命を生み、育ててくれた母への感謝、その母をくださった創造主への感謝！この聖母月の日々、わたしたちの人生の様々な道程で常に共に歩んでくださる母マリアに心からの感謝！

聖母マリアは母としての本能、非常に超自然化された本能によって、母性を發揮して神のいつくしみを注がれるといえるかもしれません。自然性において母親がもっている特権、影響力、優しさ、デリケートさをマリアは超自然的な母性で備えておられます。・・・キリストの神秘体に危険が迫り、弱さのどん底にあった時、教会は本能的に母の方に目を向けました。いいえ、むしろ教会が母を呼び求める前に、聖母は援助の手をさしのべようと待ちかまえておられました。聖母を貧しい者、弱い者に向かわせるのは、まさしく聖母の恵み、賜物である母性です。そしてそれは神のいつくしみのみ業でした。＊

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

＊『いのりの道をゆく—マリー・エウジェンヌ神父とともに』聖母文庫、聖母の騎士社

人を赦す (30)

くのり 彰

前回紹介した元真珠湾爆撃総指揮官であった海軍大佐淵田美津雄氏の言葉を続ける。

「詳しく聞かせてくれ」とわたしが膝をのりだしたことを、皆様もうなずかれるでしょう。話はこうでした。

このお嬢さんの両親は宣教師で、フィリピンにいたのだと言います。日本軍がフィリピンを占領したので、難を避けて北ルソンの山中に隠れていたのですが、やがて三年、アメリカ軍の逆上陸となって、一敗地にまみれた日本軍は、北ルソンの山中に追い込まれてきました。そしてある日、その隠れ家が発見されて、くずれた日本軍隊は、この両親をスパイだといって斬るという。

「わたしたちはスパイではない。だがどうしても斬るというのなら仕方がない。せめて死ぬ支度をしたいから三十分の猶予をください」。そして与えられた三十分に、聖書を読み、神に祈って斬の座につきました。

やがて事の次第は、アメリカで留守を守っていたお嬢さんのもとに伝えられました。

お嬢さんは悲しみと憤りに眼は涙で一杯であったに違いありません。父や母がなぜ斬られねばならなかったか、無法にして呪わしい日本軍隊、憎しみと怒りに胸は張り裂ける思いであったでしょう。

だが静かな夜がお嬢さんを訪れたとき、両親が殺される前の三十分、その祈りはなんであったかをお嬢さんは思いました。するとお嬢さんの気持ちは、憎悪から人類愛へと転向したというのです。

わたしは美しい話と聞きました。しかしわたしにはまだよくわかっていなかったのです。

淵田氏は、「わたしにはまだよくわかっていなかったのです」と言われている。何がわかっていなかったのか。それは、「敵をも赦す愛」というものがあるということでしょう。この世で、二千年前、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」とおっしゃった方がいらっしゃることをまだ知らなかったのです。

(続く)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (102)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

預言者ダニエルでさえ

一度ならず、ヨハネ修士は、修道生活の規則を破っている修士たちに出会いました。規則の一つに、たとえば、厳しい大沈黙があります。これについては、カルメル会の会則には、こう出ています。

「…であるから、われわれは、終課の終りから、次の日の第一時課がすむまで、沈黙を守ることを命ずる」。

さてセゴビアでのある日、その日の夜、聖人がセゴビア修道院のある場所を通った時、大沈黙の時間に話をしている二人の司祭に出会いました。その時、聖人は、彼らを見ただけで、何も言わずに、彼らが修室に退くよう警告し、彼らの不注意を正しました。そして翌日、共同休憩の時、その二人と一緒にいた聖人は、彼らの一人に笑いながら尋ねました。

「夜中、私に出会った時、何について話していたのか聞かせてください。」

彼は、こう言いました。

「これこれのことについて話していました。」

頭をもう一人の方に向けて、同じことを聞きました。彼もこう答えました。

「これこれのことについて話していました。」

そして二人とも、真実を言いませんでした。

その時、聖人は、彼らにこう言いました。

「そうではないでしょう。なぜならあなたたちが話していたのは、そのことではなくて、このことでしょう。」

まさにその通りでしたので、二人はどのようにして神が聖人にそのことを知らせたのか驚き入りました。彼らは、だれも自分たちの話を聞き取ることができないと知っていたので、大いに困惑しました。

このこぼれ話のタイトルが、預言者ダニエルを指していることは、明らかでしょう。スザンナの事件で、まあまあ緑色か秋の葉のように黄色い二人の老人に尋問し、裁きを下した預言者について、私は言っているのです（ダニエル 13 章）。

十字架のヨハネの場合、問題は上手に解決され、裁判官も「笑いながら」彼らに質問し、誠実さと沈黙について学ぶようにと仕向けました。とはいえ彼らは間違いなく、後者以上に前者について学んだことでしょう。



復活節第6主日

「互いに愛し合いなさい」

(ヨハネ15：9～17)

「互いに愛し合いなさい」は、主が残されたただひとつの新しい掟です。

「自分を愛するように隣人を愛せよ」と言う古くからある律法の掟とどこが違うのでしょうか。大きな違いは主の掟には相互性があることです。非常に簡単に言ってしまうと、一方向の愛には裏切られても傷つくことがそれほどありませんが、相互愛だと傷つくことがある、しかもひどく傷つくと言うことです。

詩篇には友によって傷つけられた嘆きがいくつも見られます。38編21節、35編12節には「善意に対して悪意を持って答えます」という嘆きが述べられています。これは一方向の愛といえるもので、嘆きはそれほど大きいものではありません。自分は彼らの幸いを願うのに彼らは敵対すると言って敵対するものの不当性を訴えるのが主眼です。

一方、41篇の10節には「私の信頼していた仲間、私のパンを食べるものが威張って私を足蹴にします」とあります。裏切られた苦しみが出ています。特にこの感情が吐露されているのは55篇です。「私をあざける者が敵であればそれに耐えましょう。私を憎むものが尊大に振舞うのであれば彼を避けて隠れましょう。だがそれはおまえなのだ。私と同じ人間、わたしの友、知合った仲。楽しく親しく交わり、神殿の群衆の中をともに行き来したおまえだった。」とあります。深く信頼していた友に裏切られると本当にこたえるものです。勢い、裏切ったものに対する攻撃は激しいものになります。「主よ、彼らを絶やしてください」「死に襲われるがよい、生きながら黄泉に下るがよい」などと言うようになります。

主は「私が愛したように」互いに愛し合えとおっしゃいます。主は裏切ったユダにも決してのろいの言葉は言いませんでした。ただ「ユダよ、接吻で人の子を裏切るのか」と嘆いただけでした。主はこのときどれほど傷ついておられたことでしょうか。裏切ったユダによってだけでなく、逃げてしまった弟子たちによって、また3年間福音を述べ伝えてついに回心しなかったイスラエルの民によって傷ついていました。しかし攻撃的にならず、むしろ十字架の上では「父よ、彼らをお赦してください。彼らは自分が何をしているのか知らないのです。」と祈ったのです。私たちはこの愛に与るように招かれています。

(新井)

主の昇天の祭日

(ルカ 24:46 - 53)

ご昇天の祭日は、キリストが栄光のご復活の後40日目に、弟子たちが見ているうちにご自分の力で天に昇られたことを記念します。イエスの昇天は、主が地上での私たちの贖いの業を完成されたことを語っています。ご復活の日とご昇天の日の間に何百人もの人たちに何回も出現し、これを通してイエスは二つのことを証明しました。第一に、ご自分は今人々を贖うために来た約束のメシアであるということを証明しました。第二に、死を克服したご自分を通して、生きている信仰を持ち続ける人々も又、死を克服し、神の王国を受け継ぐということを証明しました。

本日、ご昇天の祭日に、私たちはイエスの「喜び」を思います。イエスは御父と同じ栄光を分かち合うために上げられているからです。弟子たちから去る前に、イエスは彼らに使命を与えました。イエスは弟子たちに、ご自分はイスラエルの民に限っていたことを、全世界で続けるように語ります。イエスご自身がされなかったことを弟子たちは出来るでしょう。「私を信じる人は、私がすることをするでしょう。もっと大きなことをするでしょう、私が御父のところに行くからです」。彼らは全世界に福音をのべ伝えるでしょう。この使命は、まず人々に福音を説くこと、次にイエスの癒しの業を続けること、第三に聖霊から力を受けること、最後にキリストの共同体が決して孤立しないことへの召し出しを伴っています。御父である神、御子であるイエス、そして聖霊は、常に共におられます。本日の祭日は、イエスが私たちの心の中におられることを思い起こさせます。イエスはご自分の使徒的教会の中に現存しておられます。イエスは、聖体祭儀、ご聖櫃の中に物理的に現存されます。神秘的に思えますが、イエスは昇天され、その間私たちの信仰はイエスがまだ私たちといっしょにここにいてくださると確信させます。

主のご昇天はずっと前に起こったことですが、イエスの別れぎわのお言葉はまだ私たちにはっきり響き、最初の弟子たちのように今日の世界で勇気をもってイエスの証人となり続けなければならないのです。ですから、ご昇天の祭日は、別れを記念するものではなく、教会の中でイエスが生き続けている現存のお祝いです。いたるところで人々を「弟子にする」と命じられたとき、イエスは現在の状況の弟子たちに告げられます。イエスは今、弟子たちにイエスご自身の権威を渡し、イエスの使命に弟子たちを導かれます。聖霊降臨はこのことの確認です。

私たちは主のご昇天を生きているのですから、自分の生活の中でイエスを体験し、今日の世界の中でイエスの使者となれるように期待しましょう。 (Sr. Paulina)

聖霊降臨の主日

「一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、他の国々の言葉で話し出した」

聖霊降臨の日は教会の誕生日と呼ばれます。今日の福音の中で聖ヨハネはキリストが復活後初めて使徒たちに現れたとき、使徒たちが聖霊をすでに受けたと言っています。しかし聖霊降臨の日の聖霊の降下は、エルサレムの人々に印象づけ、驚かせるための公の現れという特別の出来事でした。聖霊降臨は使徒たちの宣教の幕開けのために選ばれた日です。彼らが聖霊という聖なる力に支えられていることが明らかになりました。この日からずっと、彼らは唯一の目的、すなわちよい知らせ、キリストの福音を世界に伝えるという目的に捧げられた人になりました。

これら英雄的な神の人と私たちの間には20世紀の隔たりがあります。しかし時代を通して教会にとどまっておられる聖霊のおかげで、彼らの仕事の真実が私たちと共にあります。現代の世代も寛大な人々、地上的利得よりも永遠の価値を優先する人たちを必要としています。今の教会には敵があり、多くの場所で教会は迫害されています。しかし恐れる必要はありません。聖霊の声は最初の聖霊降臨と同じように今も力強いものです。また聖霊は創造し、生命を与えます。真理の充満をもたらします。

今日の私たちにとって聖霊降臨は何であるべきでしょう。まず何よりもそれはシャロームをもたらすものです。イエスが高間で従う者たちに与えたあの平和です。キリストの使徒たちと私たちへの贈り物であるシャロームは、私たちの生活でのより大きな完成と、人間的可能性と能力の十全な発達を意味します。また喜びでもありません。これは贖われたキリスト者の際立ったしるしです。キリストは今日、シャローム、平和の賜物をくださいます。これは私たちが喜びの心で受け取り、答えるときのみキリストの望んだとおりの平和となります。

聖霊降臨の本質的意味は、人々の心の、また私たちの理解の欠如や人間関係、許せないでいること、悲観主義、希望の欠如などの変革です。この祝日が霊に進んで心を開く人すべてに与える再創造された精神と心を私たちは必要としています。聖霊降臨は今も、福音が宣べ伝えられるところではどこでも、また人々が一緒に暮らし祈っているところではどこでも今も進行中です。聖霊は私たちにこの真理を決して忘れさせないでしょう。なぜなら私たちが聖霊を所有しているのではなく、聖霊が私たちに所有しているからです。

(Beatrice)

三位一体の主日 (ヨハネ 16: 12-15)

今日、聖なる三位一体の祝日にわたしたちは父と子と聖霊の三位一体の神の神秘を思い巡らします。十分に理解することが難しい神の神秘です。わたしたちの信仰は、唯一の神である方が三つのペルソナを有しておられると教えます。これらのペルソナを持った方は全く別の方でありながら、一体です。この神はご自分の息子とご自分の霊を人間に与えられ、人間の近くで親しい関わりを持ってくださる方です。祈るときに、父と子と聖霊の御名を度々唱えます。十字架のしるしをするときには必ず唱えます、何かを始める前にまた終えたきにする十字架のしるしの中で。全ての祈りには三位一体の御名が記されています；この三位一体の神は、キリスト者としての生活を神の望みに従って生きるためにいつも必要な方だからです。

今日の祝日は、神が愛に結ばれた家族であることを思い起こさせます。わたしたちは神が三つのペルソナを有しておられる唯一の神であるという信仰を確信をもって宣言します。聖書が示しているのは三人の方の一体性です。この三位一体の神は、わたしたちと共にあって、わたしたちを導き、守り、私らしくしてくださる方であることを信仰によって理解します。ですから聖パウロは「聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれている」と教えています。聖霊は弟子たちを全ての真理へと導き、弟子たちにこれから起ることを宣言するでしょう。これは聖霊が未来を予言するというのではなく、以前とは異なる新しい生活環境の中で生きる弟子たちのために必要なイエスの教えを宣言するということです。聖霊の現存とその教えによって、イエスの教えは、年齢を超えた全てのキリスト者にとって、つねに新鮮で時宜に合ったものとなるでしょう。

最も聖なる三位一体の神秘はキリスト者の信仰とその生活の中心となる神秘であることを今日特別心に留めましょう。それは神の内的な神秘です。ですからそれはその他の全ての信仰の神秘の源であり、それらを照らす光です。これは「信仰の真理の段階的順位」においてもっとも基礎的な本質的な教えです。人間の救いの歴史の全ては、唯一の真の神である父と子と聖霊が「罪を捨てた人間にご自身を顕わし、和解し、一体となって下さる」なさり方の歴史と同一です。十字架のしるしをするとき、それが一つの大切な祈りであることを述べましたが、丁寧に敬意をこめて行いましょう。十字架のしるしは三位一体の神秘とイエスの受難、死、いのちへの復活を通して成就された人間の救いの神秘の両方に結ばれています。十字架のしるしを真の祈りとしてより厳かに尊敬の念をもって行いましょう。三つのペルソナの共同体である神、完璧な役割と平等性を保つ共同体である三位一体の神を度々思い起こし、その方の前に身を置きましょう。わたしたちは神に似たものとして創られ、少しずつ神に似た者となって行きます。それはわたしたちが言う調和と平和、喜びの世界です。

(Sr. Paulina)

キリストの聖体（祭日）

（ルカ 9：11b-17）

キリストの聖体を祝う祭日、みことばは「パンと魚の増加」の出来事が語られます。イエスと弟子の使徒たちは、人々から離れベトサイダに向かいますが、人々はイエスを追ってきます。イエスはその人々を迎え、神の国について語られます。ご自分のもつに來る人を決して追い出さないイエス。それだけでなく治療が必要な人々を癒やされます。自分を求める人々、どれほどイエスは一人一人を大切に思っておられることでしょうか。

次第に時が経ち日も傾きかけます。弟子たちは、人々が大変と思ったのでしょうか、自分たちも、そして人々をお世話するのも大変と思ったのでしょうか、イエスに群衆を解散させて下さいとお願いします。男だけでも五千人もの群衆でしたから。その様な中、あなたがたが彼らに食べ物を与えなさいと言われます。弟子たちのところにあるのは、パン5つと魚2匹だけ。買いに行くにしてもどこにその様な沢山の食料はありません。たとえあったとしても、どこにそれだけのお金があるのでしょうか。

イエスのご自身が行うべきことを解っておられ、敢えてこの様に言われたのでしょうか。弟子たちに指示して人々を座らせ、天を仰ぎ、賛美の祈りを唱えて、パンと魚を裂いて弟子たちに渡して配らせました。そうすると不思議なことに、すべての人が満腹しても沢山残るだけのパン屑があったと記されています。

どの様にパンと魚が増加していったのか、聖書の中には具体的に記されていません。どの様に増えたかということに目を留めるのではなく、イエスのご自分でなさったこと、イエスがお与えになられる食べ物は全ての人を満たす…そのことに目を留める様にと、私たちに語られている様にも思います。

イエスはどなたでしょうか、神のひとり子、救い主、神からのメシア。そのお方は、ご聖体という形で、今日も、ご自身をあまねく私たちに与えようとされておられます。一人一人を大切に、その全ての人を満たすために…。ご聖体をお祝いする今日の祭日、どの様な思いで、私たちが聖体へと招いておられるか、そのことに思いを馳せながら、心からの感謝のうちに、ご聖体の秘跡に近づいて、主ご自身を拝領し、主に結ばれて、主とともにご一緒に歩んでゆきましょう。

（Fr. 古川利雅）

糸巻き棒からペンへ(9)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OGD



しかし、聖女はその時代と全面的に一致していたわけではありません。確かに 16 世紀のカスティリヤ社会にとっぷりつかって生活していましたが、その社会にすっかり呑み込まれてはいませんでした。同時代の人々が「価値」と見なしていたものを意識していましたが、大多数がそれらを受け入れていたようには、すべてを受け入れていませんでした。当時の社会構造から脱け出しはしませんでした、絶えずその周辺にとどまりました。それは、他の人々が自然に受け入れていた慣習や制度を批判的に眺めることを可能にしました。聖女の宗教性は、その時代の信心行や宗教的行為と全面的に一致していたわけではないのです。

彼女は、自分の周りで起きていることを十分に意識していました。著作の中で次のような沢山の事柄に言及していることは驚きです。トレント公会議、宗教戦争、モロッコ人の反乱、フランスとポルトガルの対立、異端審問所の裁判、禁書目録、アメリカ大陸の征服、その時もたらされた産物（ジャガイモ、ココナツ、タカマハック樹脂など）。

聖女は、その時代の社会のすべての階層の人々と、直接的に、あるいは手紙を通じて関係を持っていました。国王フェリペ二世やその秘書、郵便局長や行政官、王子や王女、副王、宮廷の貴族や地方の貴族、大学の教授や学生、農民や乞食、銀行家や商人、タイル職人や運搬人等々。

聖職者の中では、次のような人々と交わっていました。枢機卿、教皇大使、司教、神学者、宣教師、同時代のほとんどすべての修道会の修道者、権威ある女子修道院長、敬虔な婦人たち、そして忘れてならないのは、列聖されたその時代の数多くの聖人たち： 聖ピオ五世、アルカンタラの聖ペトロ、アビラの聖ヨハネ、聖ルイス・ベルトラン、ボルハの聖フランシスコ、リベラの聖ヨハネ、十字架の聖ヨハネ。十六世紀の女性として、それも禁域の修道女として、これだけの人々と交わっていたことは、前代未聞のことでしょう。

戦争と紛争

フェリペ二世が統治した広大な帝国については、すでにお話しました。非常に異なる民族や遠く離れた土地を一つに保つことは、容易ではありませんでした。さまざまな理由から、スペインの軍隊は、数多くの国際間の戦争に巻き込まれたのです。 (九里訳)

私には「小さな親友」と呼んでいる本がそのときどきにあり、いつも手の届くところに1, 2冊置いてあります。いずれも短章の小形の薄い本が多いのですが、思いついたときに静かなときに手にとって、ぽつんぽつんと心の底へ落とすように、遙かな地平へ志を広げるように、読んだり眺めたりします。

そういう中に、最近出会った1冊があります。

批評家の若松英輔氏の「悲しみの秘儀」です。

文芸誌で氏の名前を知り心に留めましたが、氏が「イエス伝」を書いていることに心惹かれ、しかも小説家ではなく批評家が書く「イエス伝」なのだと、著者自身が言うそのことにも関心を深くしました。「イエス伝」を読もうと求める際に、ふと何気なく、おまけのようにして求めたのが「悲しみの秘儀」でした。

「イエス伝」の方はこの原稿を書くために、目下ツンドク状態ですが、大変に楽しみにしているところです。

「悲しみの秘儀」は正に私の「小さな親友」であり、今現在いつも一緒にいます。

25章の美しい随筆で編まれています。最初の章に「かつて日本人は『かなし』を『悲し』とだけでなく『愛し』あるいは『美し』とすら書いて『かなし』と読んだ。」とあります。大意とするなら、すべてがここに言い表されているといえるような本で、誰もが必ず感じたことのあるかなしいこと、かなしい言葉に満ちています。

愛する者を喪う悲しみが主だっていますが、実は若松氏自身が、若くして妻を亡くされているのです。

批評家ならではののでしょうか、言葉への、そして読むこと書くことへの思索をこめた落ち着いた調べで、深く静かに論される感覚に、たびたび魂の共振ともいうべきものを味わいました。そして全編にわたって通奏低音のように響いて在るのは、キリスト者、カトリック教徒としてのそれであり、私は若松氏の霊性として親しく聴きとりました。巻末には、引用した書籍の列記がありますが、実に30冊に上ります。引用の文章が悲しみの記述をより深く豊かなものにしていて、特に1章の「独り悲しむとき人は、時空を超えて広く深く他者とつながる」を生きたという宮澤賢治の詩「小岩井牧場」の一節は格別でした。

自分の来し方をふり返るとき、悲しみ愛しみとは私の人生のひとつのキーワードのように思っています。文中にある「悲しみがあるから生きていられる、どうして乗り越える必要などあるだろう」「誰かを愛しむことは、いつも悲しみ

を育むことになる」「愛する気持ちを胸に宿したとき、私たちが手にしているのは悲しみの種子である」 これらの言葉を私の魂はどれほどに愛しみをもって読み留めたことでしょうか。

遠い遙かな日として思い出されるのですが、結婚の日、私は不意に突然に全身全霊をもって知ったのです。夫と私は必ず別々に、必ず死ぬのだということ。新婚旅行のあいだ中泣いて過ごし、「え？ もう殺すの？」と夫をあわてさせました。

そして、長男を出産し、生まれたばかりのまだ名もない嬰兒を抱いたときも、ああ、この児も必ず死ぬのだという、決して動かすことのできない事実が立ちふさがり、悲しさと愛しさに耐えられずに、児をかき抱きただただ涙にくれて、底なしの深みへと落ちました。授かることと、失うこととが、なぜか同時に極まり尽くされて、突如として襲いかかったのです。言葉にもできず思いにすならず、お手上げの絶望でした。

思えば、自分のすべてが瓦解するキリストとの遭遇は、ここから10年の後になります。(蛇足ですが、洗礼の日は奇しくも10年目の結婚記念日その日でした)

神と人に愛され、多くのかけがえのない出会いと、多くのかけがえのない別れを与えられ、愛すること(或いは愛せない無力)を少しずつ学びながら、長い歳月を生きてきました。悲しみ愛しみは、たとえ絶望的な無力の果てにあるとしても、明けの方へと開いていることを、御霊みずからの切なるうめきのとりなしによって、私の魂は大きな安心感の中で、教えられてきたのだと思っています。とりわけ、スターバト・マーテル、ピエタは、私のいのちを支え潤す絶えることのない愛の泉です。

本書の最後25章には、夏目漱石の「こころ」が引用され、「先生」の遺書を受けて、次の言葉でしめくられます。

「消えることのない光は、いつも暗いところに隠れているというのである」

また、著者あとがきの日付けは「2015年11月2日 亡き者たちの日、万霊節に」とあります。

愛することのかなしさが深い1冊です。

いのちの言葉 5月

神が人と共に住み、人は神の民となる。
神は自ら人と共にいて、その神となる

(ヨハネの黙示録21・3)

神は、常にご自分の民である私たちと共に住まうことを望んでおられました。旧約聖書の最初のページには、「天から下られた神は園を歩いてアダムとエバと言葉を交わされた」ことが記され、そこにも神の望みが示されています。実に、神が人を造られたのは、そのためではなかったでしょうか。ちょうど恋人が愛する相手といつも共にいることだけを望むように。

今月のみ言葉には、人類の歴史の上にある神のご計画が啓示されています。そして、このみ言葉は、神のお望みが完全に実現されるという確信を私たちに与えてくれるものです。

インマヌエル（私たちと共におられる神）であるイエスが、この地上に来られて以来、神はすでに私たちの間に住まわれています。そして復活されたイエスは、もはや時間や空間にとらわれることなく、その存在は全世界に及んでいます。イエスとともに、今までにない新しい共同体、多くの民からなるひとつの民が生まれました。神が望まれるのは、私の心の中、家族の中、あるいは特定の民の間に住まうことではありません。神は、ひとつの民を形成するよう呼ばれたすべての民の間に住まうことをお望みになりました。

現代世界にみられる大規模な人々の移動は、民族という概念すら変えようとしています。多くの国ではすでに複数の民族からなる国が形成されていることも事実です。

しかし、お互いの間には肌の色、文化、宗教といった違いがあり、しばしば不信任感、疑惑、不安に襲われ、また戦争もおこります。にもかかわらず、神は私たち皆の御父であり、ひとり一人を愛しておられます。神は、他の民族を見捨てて、特定の民の間に住まうことなど望まれません。神にとって私たちはみなご自分の子どもであり、ひとつの家族なのです。

では、今月のいのちの言葉の助けをかりながら、相手が自分にとって大切な存在であることを認め、お互いの違いとその良さを尊重するように努めましょう。「私は相手であり、相手は私。相手は私の中に生き、私は相手の中に生きている」と。

まずは、毎日生活を共にする人から始めてみましょう。このように生きることによって私たちの間に神様がいて下さるようになるでしょう。唯一、神だけが一致をもたらし、個々の民族の特性を生かしながら、「新しい社会」を生み出すことができるお方なのです。

キアラ・ルービックも 1959 年に、現代社会に最も必要とされるものは何であるかを次のように語っています。「いつの日か人類が、それぞれが自国への思

いを脇に置いて、個々の存在としてではなくひとつの民族として、神が望まれるように国と国の間でも兄弟愛、お互いの愛を生きるようになるならば、民と民の間にイエスが生きる新しい時代が始まるでしょう。すべての民族が国境を越えて物事を見つめ、他国を自分の国のように愛する時代が到来することでしょう。私たちの目は清められ、澄んだ新しい目でこの世界を見つめることができるでしょう。キリスト者は、もはや自分への執着を断ち切るだけでは不十分です。ならば、現代のキリストの弟子たちに求められるものはいったい何でしょう。キリスト教的な価値観を大切にしながら社会の中で生きていくことではないでしょうか。

分裂し、正しい道から逸脱しているこの世界を主が憐れんで下さいますように。殻に閉じこもり頑なに自国の益を守ろうとする国々の傍らで、多くの民が飢え渴き、助けを必要としています。どうか神がこうした国々の壁を打ち壊し、国同士の間にも愛が行き交い、また、精神的かつ物質的な富が行き交うようにして下さい。そして、いつの日か、この世界に新たな秩序がもたらされますように。人類をひとつの家族にし、それぞれの民の優れた特性を生かして下さい。それぞれの国が持っている素晴らしいものを他の民のために役立てるようにするならどうでしょう。そうすれば、この地上においてすでに、永遠のみ国がどれほど素晴らしいものであるかをほんの少しでも味わうことになるでしょう。」*1

ファビオ・チャルディ神父

*1『靈的教義』より「マリア - 人々の一致の要」 チッタノーバ社、ローマ 2006年 p.327-329

*2016年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ

いのちの言葉の集い

関東 5月8日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
(週日に、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 5月8日(日) 14:00~ 瀬戸市みずの坂サポートハウス「ゆうや」

神奈川マリアポリ 5月28~29日(土日) 横浜市民ふれあいの里 上郷・森の家

連絡先 : フォコラーレ
03-3707-4018/03-5370-6424

長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ:

con1157ch1.wix.com/focolare-jp

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

◀ Communications (時事通信) ▶

2016年3月15日

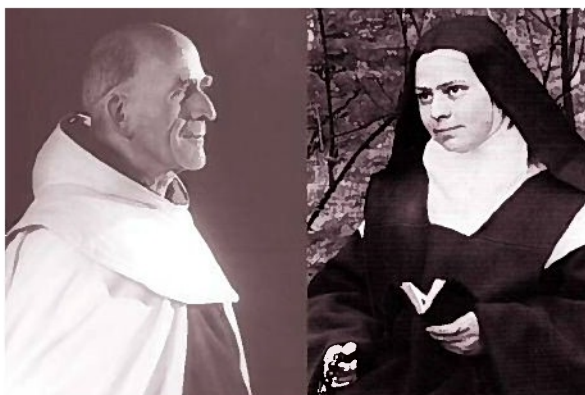
列聖と列福ための奇跡の承認

去る3月4日、バチカンの公報は、教皇フランシスコが、列聖省長官アンジェロ・アマト枢機卿の報告を受け、福者三位一体のエリザベットのとりなしと、神のしもべ幼きイエズスのマリー・エウジェンヌ神父のとりなしによる奇跡を承認されたというニュースを掲載した。

福者三位一体のエリザベットのとりなしによる奇跡は、2002年4月、マリア・パウラ・スティブンが、二人の親しい友人と共に、ディジョンのフラヴィニエロに、愛する福者エリザベットにお別れの挨拶をし、キリスト者として死ぬ恵みを願い、神の無限の愛を証しするために、巡礼に訪れた時に起こった。1997年以来、彼女はシェーグレン症候群の病にかかり、そのために寝たきりとなり、やがて死を待つばかりとなった。固形食物は喉をとらず、人の手を借りずには動くこともできず、多くの苦しみの中にあつた。彼女の病気からの回復は、驚くべきことに突然であつたという間のことであり、病気がぶり返すことはなかった。

マリー・エウジェンヌ神父を福者とするとりなしの奇跡は、1986年10月27日に起こった。生後まもない乳児は水活性嚢腫のために首の手術を受け、3日後、突然の出血のために緊急手術を余儀なくされた。リンパ腺の嚢水腫は、リンパに重大な損傷を与え、新陳代謝や感染症や栄養障害を引き起こし、乳児を危篤状態に陥らせた。そんな病状の中で突然、神秘的に傷の嚢水腫が消え、乳児は急速回復に向かい、栄養も普通に与えられ、何の問題もなく退院することができた。

神に感謝！



跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

04//04//2016

Acts Father Zdenko Križić, ocd, Bishop of Gospić-Senj (Croatia)

Pope Francis has appointed our brother, Zdenko Križić, as Bishop of Gospić-Senj (Croatia). Until the present, he served as rector of the Teresianum permanent community.

Father Zdenko was born on February 2, 1953, in Johovac (Bosnia-Herzegovina), in the heart of a Catholic family of Croatian origin.

He made his simple profession when he was 17 years old, on July 27, 1970, studied philosophy in Florence, and theology in the Teresianum. He made his solemn profession on July 16, 1976, in Zagreb, where he was also ordained on June 26, 1977.

He received his licentiate in theology from the Teresianum. His thesis was an analysis of biblical men and women in the work of Saint Teresa.

Father Zdenko has carried out various offices associated to the presence of our Order in Croatia: He was first counsellor of the Commissariat and prefect of the minor seminary. Once the province was created, he was provincial superior for six years and after that, Vicar as well as novice master.

His availability has not been limited to his province and the friars. During the period 2003 to 2009, when Father Luis Aróstegui was Superior General, Father Zdenko was Vicar General. He has accompanied our Discalced Carmelite nuns as advisor of the Croatian Federation and attended to various monasteries outside of his country. He has been rector of the Teresianum permanent community since 2012.

The episcopal see of the diocese of Gospić-Senj is the city of Gospić, and it is suffragan of the diocese of Fiume. It has about 65,000 baptized. It was established on May 25, 2000, by Pope Saint John Paul II and extends from the southern part of the region of Karlovac to the northern part of the regions of Lika and Senj in Croatia. It is also part of the diocese of the city of Zavalje in Bosnia-Herzegovina.

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

The region is economically poor, with 52 priests (nine of whom are religious) and 13 women religious.

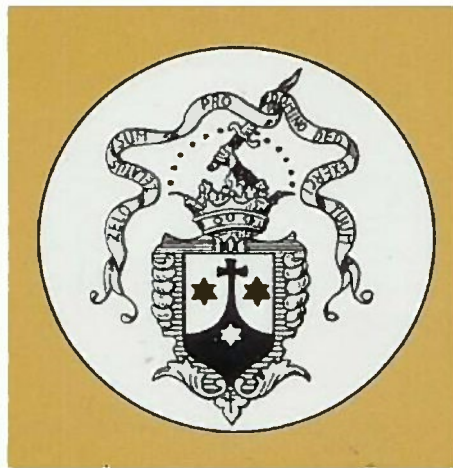
Our Father General has written a letter to Father Zdenko from Usole, Siberia (Russia), where he is visiting nuns and friars of the Province of Warsaw. The letter, written in Italian, can be seen on our Italian-language website.

We transcribe here only one paragraph: "As is always the case when a brother is called to an office of this nature, my sentiments, and I think that of all your brothers and sisters, are of happiness for our disposition to serve the Church wherever she requests, but also nostalgia because you will no longer be able to live your bond with our family quite as intensely.

"Thank you very much, dear Father Zdenko, for all the good you have done within your family. May the Lord, through the intercession of Mother Teresa, Saint Joseph, and the Virgin Mary of Mount Carmel, pour His Spirit over you, such that He will always be your light and guide on the path of this new mission."



カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター 2016年4月～2017年3月

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

1. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2016年12月24日(土)～25日(日)朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

[聖人たちを支えた神のことば]

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

2016年

5/13 (金)、5/26 (木)、6/24 (金)、6/30 (木)、
7/8 (金)、7/21 (木)、9/8 (木)、9/16 (金)、10/28 (金)、
11/11 (金)、11/24 (木) 12/9 (金)、12/22 (木)

2017年

1/12 (木)、1/27 (金)、2/9 (木)、2/24 (金)、3/9 (金)
3/24 (金)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉献生活者のための黙想会

2016年

7月31日(日) 18時～	8月9日(火) 朝	福田正範神父
8月12日(金) 18時～	8月21日(日) 朝	福田正範神父
10月13日(木) 18時～	10月22日(土) 朝	福田正範神父
12月27日(火) 18時～	2017年1月5日(木) 朝	福田正範神父

4. 青年黙想会(男女)

2016年

11月26日(土) 16時～27日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)

2016年

10月8日(土) 16時～10日(月) 16時

6. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2017年

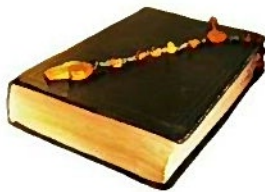
3月 18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

7. 特別黙想会 Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2016年

5月27日(金) 20時～29日(日) 16時

10月28日(金) 20時～30日(日) 16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。

間違いを避けるためなるべくFAX・はがき・Eメール等でお願ひできますならば幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel : (03) 5706-7355 Fax : (03) 3704-1789

Eメール : mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

*****日帰り黙想会*****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時： 2016年 5月13日(金) 午後1時30分～午後4時

5月26日(木) ”

6月24日(金) ”

6月30日(木) ”



お問合せ・お申込み+

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

2016年5月27日（金）20時～29日（日）15時

マリアに注がれる神のいつくしみ

いつくしみの聖年にあたり

マリアとともに 神のいつくしみのまなざしのもとに
しばらく静かなひとときを過ごしてみませんか？



母マリアは

私たちが闇夜を歩いているとき

神のいつくしみの愛を

母としてすぐそばで示してくださる

救い主イエスのかたわらには

かならず母マリアがおられる

～マリー・エウジェヌ神父 o c d～

- 指 導：伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品：新約聖書、『いのりの道をゆく』聖母文庫、聖母の騎士
- 参加費：¥12000
- 場 所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想の家)
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-5706-7355
- お申込み：FAX:03-3704-1764 Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
または、ハガキにてお申込み下さい。

2016年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)	5月6日(金)～8日 9月10日(土)～11日	イエスいつくしみの愛のもとに留まる 人生の裏りを思いめぐらす	中川博道神父 中川博道神父
-----------------------	----------------------------	-----------------------------------	------------------

【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)	5月14日(土) 6月11日(土) 7月2日(土)	9月10日(土) 10月22日(土)	中川博道神父 中川博道神父 中川博道神父
----------------------	---------------------------------	-----------------------	----------------------------

【水曜黙想】

(午前10時～午後4時)	5月18日(水) 6月8日(水) 7月20日(水) 9月21日(水) 10月19日(水) 11月16日(水)	神のいつくしみの啓示者イエス。キリスト 神のいつくしみとイエスの聖テレサ 神のいつくしみと十字架の聖ヨハネ 神のいつくしみとエディット シュタイン 神に愛されている喜び いつくしみの御母、聖マリア	松田浩一神父 松田浩一神父 松田浩一神父 松田浩一神父 シスターロサ 松田浩一神父
--------------	---	---	--

【キリスト教霊的同伴】

午後8時～午後3時まで (金) 夕食なし	6月03日～04日(土) 7月8日～9日(土) 9月2日～3日(土)	10月21日～22日(土) 11月11日～12日(土) 12月2日～3日(土)	松田浩一神父 松田浩一神父 松田浩一神父
-------------------------	--	---	----------------------------

【待降節の黙想】

(午後5時～午後4時)	12月10日(土)～11日(日)	夜露のように静かに訪れる神を待つ	中川博通神父
-------------	------------------	------------------	--------

【聖テレーズの黙想】

(午後5時～午後4時)	9月30日(金)～10月1日(土)	伊従 師
-------------	-------------------	------

【一般のためのカルメルの霊性セミナー】

(午前10時～午後4時)	5月2日(月)～5日(木)	イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊性(1)	松田浩一神父
(午後5時～午後4時)		イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊性(1)	松田浩一神父
	10月14日(金)～15日(土)	イエスの聖テレサの霊性	松田浩一神父
	12月13日(火)～14日(水)	十字架の聖ヨハネの霊性(2)	松田浩一神父

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)	8月2日(火)～11日(木)		中川博道神父
	8月15日(月)～24日(水)		松田浩一神父
	12月27日(火)～1月5日(木)		松田浩一神父
【English Retreat】 (10am to 4pm)	5月28日(土)	Come to me you broken hearted.	シスターロサ
	11月26日(土)	Maranatha-Come Lord Jesus	シスターロサ

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
 12月24日(土)～12月25日(日) {講話なし、各食事つき}



『その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。』

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
 宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
 Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
 E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

一般のためのカルメルの霊性セミナー

テーマ：『カルメルの聖人たちの神のいつくしみのみ業』

《5月3日イエスのテレサ、5月4日十字架のヨハネ、5月5日リジューのテレーズ》

「教皇はこの聖年中、特に司牧者と信徒が『いつくしみの行為による業と、霊的な業』を信仰生活の中心に据えることが必要と強調」
パチカンニュース 1月29日より

場所：カルメル会聖テレジア修道院<黙想>（京都）

日時：5月2日（月）PM5:00～

5月5日（木）PM4:00

参加者：カルメル会の霊性に興味のある人

参考資料：当日プリントをお渡しします。

費用：20,000円<学生：10,000>

指導：松田浩一 神父（カルメル会士）



イエスのテレサ



十字架のヨハネ



リジューのテレーズ

男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457



teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

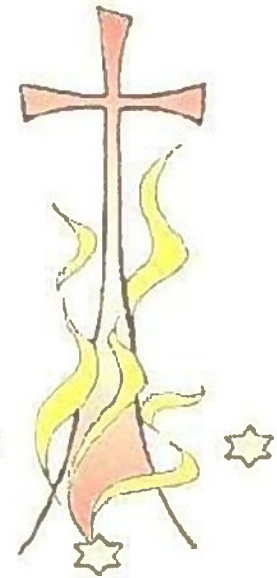
日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴**(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(**霊的理解**)を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴**(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。

【参加者人数】 6名

【開催日】 2016年 2月19日(金)～20日(土) **終了**
3月18日(金)～19日(土) **終了**
6月 3日(金)～ 4日(土)
7月 8日(金)～ 9日(土)
9月 2日(金)～ 3日(土)
10月21日(金)～22日(土)
11月11日(金)～12日(土)
12月 2日(金)～ 3日(土)
(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



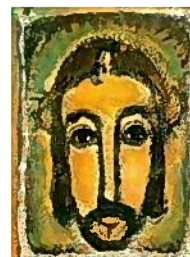
【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

《 名古屋一日静修 》



神のいつくしみに学ぶ

— 特別聖年を迎えて —

1. 日時：1月23日（土）「いつくしみの特別聖年について」 **終了**
九里 彰 神父
3月21日（月）「十字架の聖ヨハネを捕らえた神のいつくしみ」 **終了**
九里 彰 神父
5月21日（土）「神のいつくしみのうちに真理を学ぶ
—イエスの聖テレジアの場合—」
松田 浩一 神父
7月18日（月）「神のいつくしみの生きた証人となれ…
（福者フランシスコ・パラウと他）」
Sr. ポーリン・フェルナンデス（カルメル宣教修道女会）
9月19日（月）「いつくしみの泉である教会」
今泉 健 神父
11月23日（水）「神のいつくしみ ～テレーズの果てしない希望～」
Sr. 伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

2. 場所：カトリック日比野教会 信徒会館
（地下鉄・名港線日比野駅下車 徒歩約5分）

3. 参加費：1000円

4. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当

5. プログラム

10:00 導入の祈り（聖堂）
10:20 第一講話（信徒会館）
11:30 念祷 ① 赦しの秘跡または面接
12:00 昼食（信徒会館）
12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接
13:00 第二講話
14:00 念祷 ③
14:30 ミサ（聖堂）
15:30 茶話会（信徒会館）
16:00 終了の祈り

6. 申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。

FAX / 0568 - 62 - 5167

mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp

ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁目 1-26

「名古屋一日静修」係り

〈カルメル修道会主催 名古屋カルメル在世会協賛〉

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

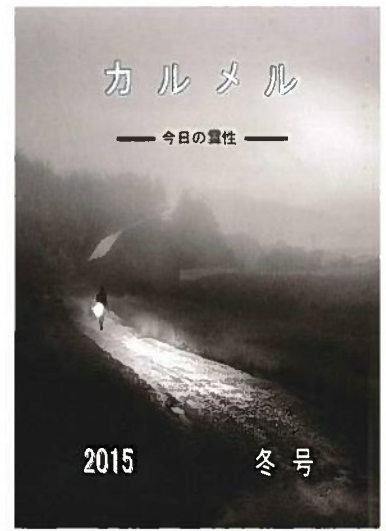
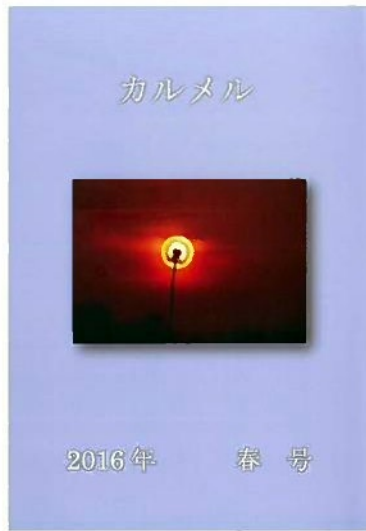
金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

「カルメル」
今日の霊性・春号
今日の霊性・冬号



2016 春 No.360

2015 冬 No.359

神が慈しまれた道 (9)	奥村 一郎	48
ジュリエットは孤独を生きる	森 みさ	41
聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて 最終回 ——(みことば)がわたしのうちに住まわれている喜び—— マリイ・エウジエヌ 福・訳 伊従信子	33	
イエナの聖テレサと男子跣足カルメル修道会についての「お祭」(4)	松田 浩一	25
風に吹かれて (7) ——成熟と喪失——	原 造	22

● 目次 ●	● 今年の特集 「いつくしみの特別聖年」 ●	
「いつくしみの特別聖年」の意義について (1)	田畑 邦治	9
神のいつくしみという人間の目標 ——ひとつの祈りにさそわれた考察——	須沢 かおり	15
いつくしみの秘義を生きる (1)	須沢 かおり	15
「いつくしみの特別聖年」を迎えて (1)	九里 彰	3

● 目次 ●	● 今年の特集 「聖テレジアと奉獻生活」 ●	
修道生活の改革 (4) ——アビラの聖テレジアの理想——	九里 彰	3
エディット・シュタインの著作に見るアビラの聖テレサ ——祈りの真髄——	須沢 かおり	9

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。
(サンパウロ、ドンボスコ書店、イグナチオ教会案内所、
上野毛教会の信徒ホール本コーナー等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL 36(03) 5706-8356

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2016年予定

N1	02/26 (金) -03/03 (木)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	05/07 (土) -05/13 (金)	滋賀唐崎・ノートルダム
K1	06/13 (月) -06/19 (日)	東京・小金井・聖霊会
K2	10/01 (土) -10/07 (金)	東京・小金井・聖霊会
N3	10/20 (木) -10/26 (水)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	12/05 (月) -12/11 (日)	東京・小金井・聖霊会

2017年予定

N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム

年間のテーマ

イエスとの出会い
その喜びを味わう

(レクティオ ディヴィナ)



2016年度行事のご案内

祈りの集い(10時~15:00時)

1月14日	イエスの誕生 (ルカ 2:1-14)	9月08日	ベトザクの病人 (ヨハネ 5:1,-18)
2月11日	アンデレ (ヨハネ 1:35-43)	10月13日	マグダラのマリア (ヨハネ 20:11-16)
3月10日	ニコデモ (ヨハネ 3:1-8)	11月10日	フィリポ (ヨハネ 14:7-14)
4月14日	トマス (ヨハネ 20:19-28)	12月08日	ペトロ (ヨハネ 21:15-19)
5月12日	イエスの愛する弟子 (ヨハネ 21:1,-7)		
6月09日	ザアカイ (ルカ 19:1-9)		
7月14日	サマリアの女 (ヨハネ 4:6-30)		
8月	休み		

指導者: フランコ神父

☞ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町鱈浦 1391-7
☎ 0968.85.3100
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2016年度 夏学期: 理性の自律と心の愛
5/7, 5/14, 5/21, 5/28, 6/11, 6/25, 7/2, 7/9, 7/23,
9/3, 9/10, 9/17

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。
8月23日は、上智大学内クルトゥルハイム2F聖堂。
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。
・「通う霊操」 8月20日(土)～8月28日(日)
18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」

6月18日(土)10時～19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)～20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)～19日(日)(上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切日は、初日の8日前。
[関西] 9月24日(土)13時30分～25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
2016年
5月7日、6月11日、7月2日、8月6日、9月10日、
10月1日、11月12日、12月3日
2017年
1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心

4月28日(木) 20時20分～5月5日(木) 8時40分
6月3日(金) 20時20分～5日(日) 13時00分
8月7日(日) 20時20分～13日(土) 8時30分
10月30日(日) 20時20分～11月3日(木) 8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。
[関西]
7月30日(土)17時45分～8月5日(金)15時。
宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
6月25日(土)、10月15日(土)、2017年1月29日(日)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2016-17年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

キリスト教理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- イエス(上智大学内 Kulturräume 2階)
- 5/6 理性と神認識の道—世界内存在を通して
- 5/13 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
- 5/20 歴史と信仰—神との出会い
- 5/27 内なる神—その「似姿」としての人間
- 6/3 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/10 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
- 6/17 救い主の役割—人類の待望
- 6/18-19 ●黙想会(上石神井)
- 6/24 神の国—イエスの告げるメッセージ
- 7/1 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
- 7/8 イエスのたとえ話—神の働きを語る
- 7/15 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/22 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/23 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内 Kulturräume 2階聖堂、定員80人)
- 7/29 最後の晩餐—自分を与えるイエス
- 8/5,12 ○休み
- 8/19 イエスの受難—その史実と意図
- 8/20-28 ●通う霊操(18時-20時45分)
- 8/26 イエスの死—その救済的意義
(8月中 上智大学内 Kulturräume 2階聖堂)
- 9/2 聖書のイエス像—ヨハネとパウロの見たイエス
- 9/9 ○休み
- 9/16 イエスの復活—今に生きるイエス
- 9/23 聖霊—神の愛に導かれる
- 9/30 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
- 10/7 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
- 10/14 教会の成立と意味—イエスを中心に集う
- 10/21 人間としてのイエス—新しい人間像の基礎づけ

[人間]

- 5/17 救いの歴史—時間における意義

[神]

- 5/31 無限への問い—理性による神理解
- 6/7 世界の根源—創造的自由・進化・摂理
- 6/18-19 ●黙想会(上石神井)
- 6/21 人生のうちに働く超越—神経験の多様な形
- 7/5 「私は在る」—旧約における神の自己啓示と預言
- 7/19 神の語りかけ—「契約」と「救い主」の待望
- 7/23 ◆感謝のミサ(14時、Kulturräume 2階聖堂、定員80人)
- 8/2 ○休み
- 8/16 将来の約束—自立した世界の中の導き
- 8/20-28 ●通う霊操(18時-20時45分)

[イエス]

- 8/30 史的イエス—活動と生き方の特徴
(8月中 上智大学内 Kulturräume 2階聖堂)
- 9/6 神の国—イエスの使信
- 9/20 根本たる愛—律法の完成と克服
- 10/4 受難による救い—イエスの救済的役割

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03・3263・4584
クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス
電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)
Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ



すべての人のための祈りの集い
カルメルの霊性に学びつつ、
キリスト者としての霊性を養うための
沈黙の祈りで構成された集いです

東京 いくつしみの特別聖年に：マリアと慈しみ
5月21日（土） 午後2時～午後5時30分
講話：伊従信子

祈り・質問・分かち合い
参加費 200円

~~~~~

お申し込み・問い合わせ：東京ノートルダム・ド・ヴィ  
〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35  
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254  
e-mail [notredamedevie.japan@gmail.com](mailto:notredamedevie.japan@gmail.com)

## 京都

5月14日（土） 13時半～15時 京都NDV 担当：伊従信子  
\* 『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』 聖母の騎士聖母文庫  
三位一体の聖エリザベト 8章 日々の生活で 愛に変えられる  
5月17日（火）13時半～15時半 河原町カトリック会館3階304室  
\* 『弱さと神の慈しみ』伊従編著、サンパウロ出版 担当：伊従信子  
\* 祈り：「都の聖母」聖堂にて 15～15時半  
5月28日（土）13時半～15時 京都NDV 担当：中山真里  
\* 主日の福音（5月29日）の分かち合い

~~~~~

お問い合わせ 京都ノートルダム・ド・ヴィ
〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4
TEL・FAX(075-462-3525)
email : ndvkyoto@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
入門B	5/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5918-9870
フォロー アップ	5/29(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
リピータの会	6/2(木)17:30- 6/5(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 Sr 比嘉	
サダナ I	6/10(金)17:30- 6/13(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女 会東京修道院(東村 山)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5918-9870
入門C	6/19(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
サダナ I	7/15(金)17:30- 7/18(月)16:00	Fr植栗	女子御受難修道院 (宝塚市)	大倉本子 Tel 078-811-2706
サダナ I	8/17(水)- 19(金) 9:00-17:00 *3日間通い	Fr植栗	藤学園 キノルド資料館ホール (札幌市北区)	白鳥 栄 Tel 011-666-5622 080-1875-6682

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2016年 5月 6日(金) ～ 5月 14日(土)
- ② 8月 14日(日) ～ 8月 22日(月)
- ③ 10月 19日(水) ～ 10月 27日(木)
- ④ 12月 27日(火) ～ 2017年 1月 4日(水)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2016年 2月 5日(金) ～ 2月 7日(日)
- ② 2月 26日(金) ～ 2月 28日(日)
- ③ 3月 18日(金) ～ 3月 20日(日)
- ④ 6月 17日(金) ～ 6月 19日(日)
- ⑤ 7月 22日(金) ～ 7月 24日(日)
- ⑥ 9月 16日(金) ～ 9月 18日(日)
- ⑦ 11月 18日(金) ～ 11月 20日(日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

2016年 5月 30日(月)～ 6月 7日(火) 中川博道 師（加母会）

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(カタカナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

神のいつくしみを生きる

2016年度 青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月21日(土)～22日(日)	闇と光	山内十束師(ご受難会)
2	7月9日(土)～10日(日)	冬と春	山内十束師(ご受難会)
3	11月12日(土)～13日(日)	絶望と希望	山内十束師(ご受難会)
4	2月18日(土)～19日(日)	罪と恵み	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

神のいつくしみを生きる

—闇と光—

2016年度 第1回 青年黙想会

日時： 5月21日 (土) 15:00 ~

22日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2016年5月15日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00

【2016年予定】

- 3月17日(木) 『霊の賛歌』 第1回目：導入の講話（緒言と詩） **終了**
- 5月26日(木) 『霊の賛歌』 第2回目：はしがき・概要・注解
- 7月21日(木) 『霊の賛歌』 第3回目：第一の歌（2～12）
- 9月22日(木) 『霊の賛歌』 第4回目：第一の歌（13～22）
- 11月17日(木) 『霊の賛歌』 第5回目：第二の歌
- 12月15日(木) 『霊の賛歌』 第5回目：第三の歌

* 参加費無料（献金歓迎）

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

＜＜特別黙想会＞＞

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里彰神父

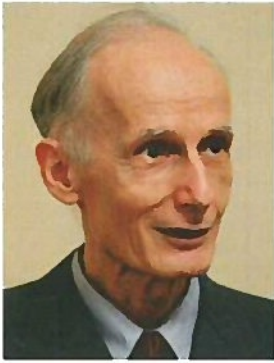
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

靈性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）

この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の靈性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：靈性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

New! 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

『靈性センターニュース』 お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

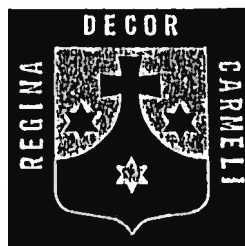
パナマ文書の漏洩で、多くの政治家がパナマを“tax haven”（租税回避地）として利用し、隠し財産を持っていることが明らかになった。多くの多国籍企業も、納税を避けるため、パナマをはじめとする発展途上国を、“tax haven”として利用している。租税回避、脱税を阻止するため、G20 や OECD が具体策を練り始めた。世界がますます小さくなっていく現在、どの国も従わざるを得ない普遍的な商業道德の確立が求められているのだろう。

国内でも自分のことや自社の利益だけを求めて、闇の力に負け、さまざまな不正、不誠実極まりないごまかしが後を絶たない。最終的には、個々人の良心、人格の高潔さが問われることになるが、世界中の誰もが、個人的にも社会的にも従わなくてはならない道德、生活の規則が求められる。しかしそれは、古来、宗教的な地平ですでにたびたび言われてきたことであろう。

言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。

（ヨハネ 1・10）

（P.九里）



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「6月号」製本日

5月31日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1 階
午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171